

令和6年度 第2回調布市公共交通活性化協議会 資料

地域公共交通計画策定に向けた 調布市公共交通の「現状診断」のための取組状況

令和6年9月27日（金）
調布市 都市整備部 交通対策課

説明内容

- ・ 前回の活性化協議会での協議内容について 3
- ・ 「現状診断」のための取組
 - ① 人の移動に大きく関係するデータを活用した空間的な分析 5
 - ② 移動制約に関するデータの収集・整理 6
 - ③ 計画策定に資する勉強会 7
 - ④ 地図やデータだけではわからない地域特性の現地視察 8
- ・ 今後の取組方針について 9
- ・ 参考資料（①人の移動に大きく関係するデータを活用した空間的な分析において作成した各種地図） 10

前回の活性化協議会での協議内容について

- 第1回協議会では、調布市地域公共交通計画について、昨年度の協議会等でのご意見を踏まえ、以下について内容を充実させることに関して協議いただいた。

＜令和5年度からの充実点＞

(1) 検討のアプローチ

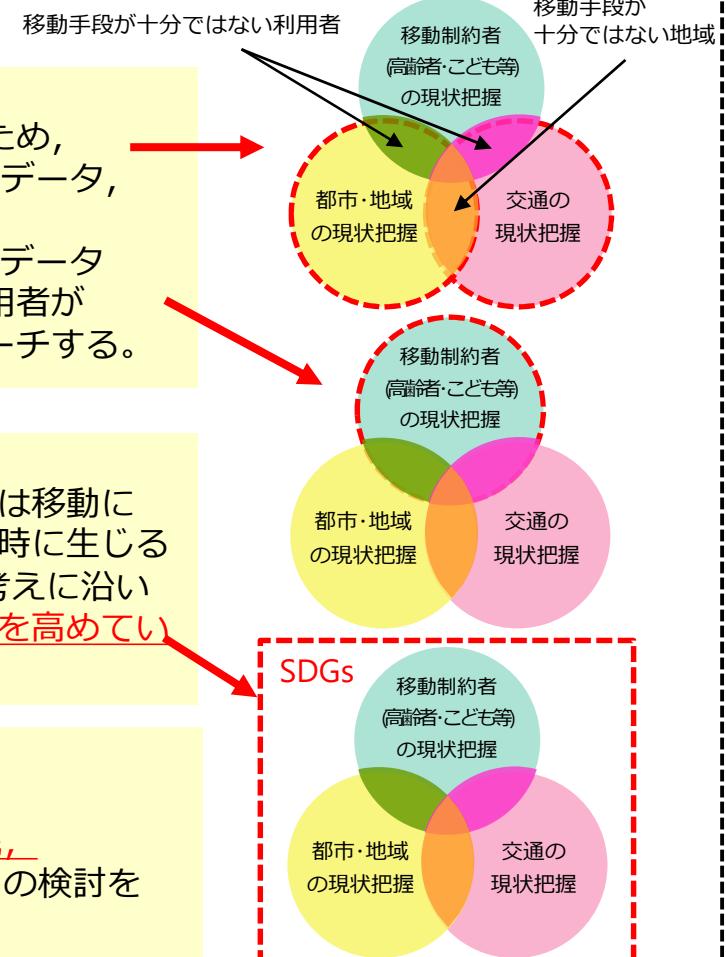
- 「現状診断」を的確に行い、現状・問題・課題を明らかにするため、「交通の現状把握」及び「（都市）地域の現状把握」の客観的データ、諸計画などを洗い出し、空間的な情報と合わせて整理していく。
- 「視点」となる「移動制約者の足の確保」につながる行政保有データや移動支援等の関連事業を洗い出し、福祉分野と連携して、利用者が移動関連事業をどのように見ているかなど、事業の実情をリサーチする。

(2) 計画において重視する考え方

一般の利用者と比べて、高齢者や子ども、心身に障害を持つ方は移動に関する制約が多いため、自立して移動することへの支援や移動時に生じる必要な保護などを模索し、SDGs（持続可能な開発目標）の考えに沿いつつ「(1) 検討のアプローチ」に示したものをおよそ公平性を高めていくことを目指す。

(3) 計画策定・推進体制

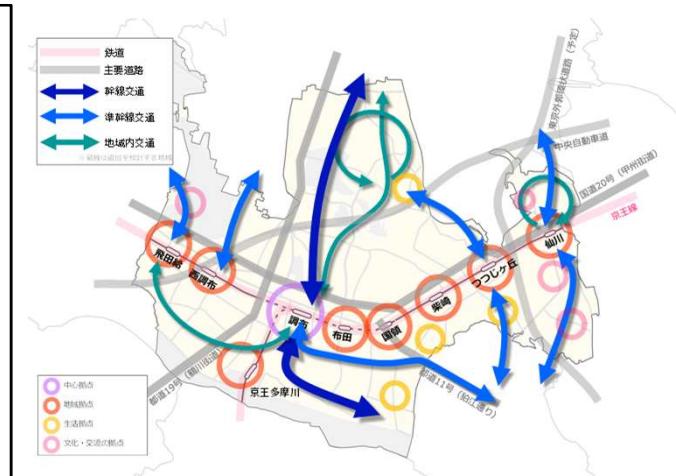
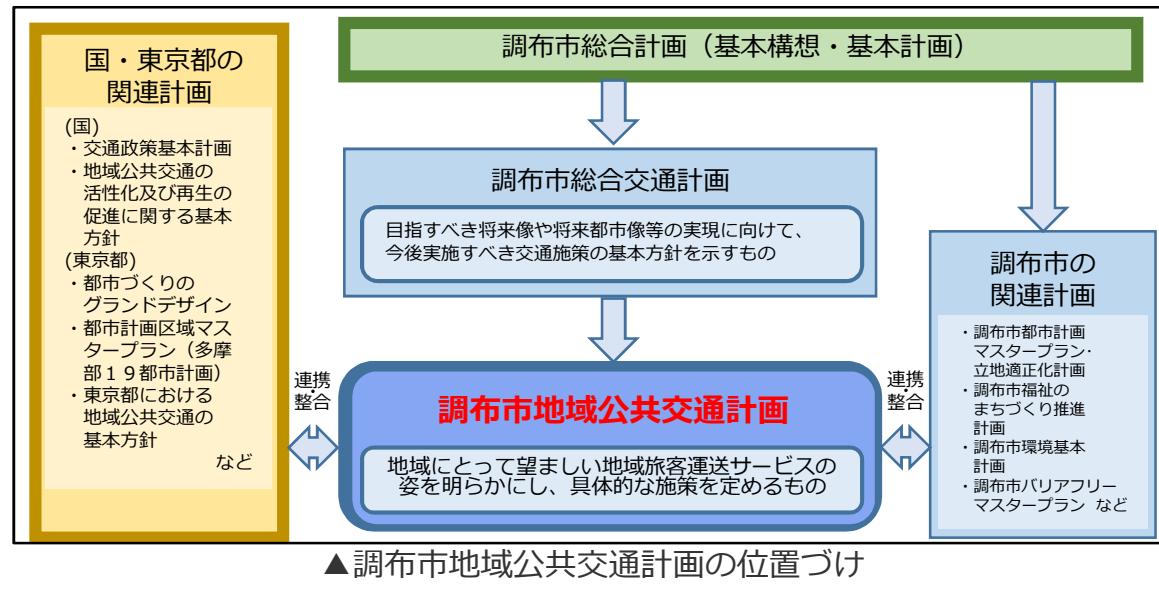
施策を具体的に推進するための仕組みをつくるなど、
関係者（国、都、近隣自治体、事業者、社会福祉協議会、市民、
ボランティア他）が協力をしながら実現に向けて取り組む体制の検討を
計画策定とあわせて行う。



▲前回の活性化協議会での協議内容（令和5年度からの充実点）

「現状診断」のための取組

- 第1回協議会で示した方針に基づき「現状診断」を行うため、これまで以下の取組みを進めている。
 - 人の移動に大きく関係するデータを活用した空間的な分析
 - 移動制約に関するデータの収集、整理
 - 計画策定に資する勉強会
 - 地図やデータだけではわからない地域特性の現地視察
- なお、調布市地域公共交通計画が調布市総合交通計画やその他の上位・関連計画に連携・整合したものとなるよう、引き続き内容を精査していく。

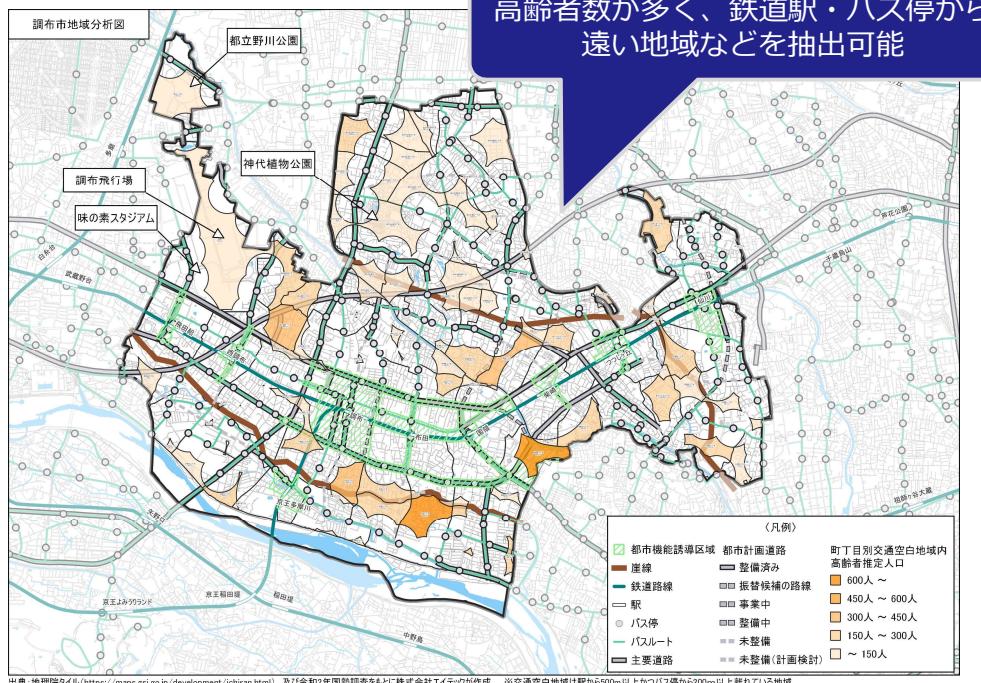


▲バスネットワークイメージ
(出典：調布市総合交通計画)

「現状診断」のための取組

①人の移動に大きく関係するデータを活用した空間的な分析

- 第1回協議会で示した方針に基づき、収集したデータを用い、GIS上で空間分析を進めている。
 - 交通が十分な地域・不十分な地域を空間的に抽出する。
 - 抽出した交通が十分ではない地域や従来から示してきた交通不便地域を合わせ、改めて空間的な整理を行う。
 - 高齢者、子ども、障がいのある方など、移動に関する制約の種類や程度について着目し洗い出す。
- これらを踏まえた「交通ネットワークの統合的将来像」を描くことで、「目指す姿」を示す。



▲公共交通不便地域の高齢者人口

種類	データ
交通	都市計画道路
	重要物流道路
	鉄道駅、鉄道路線
	バス停、バスルート
	シェアサイクルステーション
	区間別日便数（京王バス、小田急バス）
	公共交通空白地域（駅から800m、バス停から300m）
町丁目別 人口等	公共交通空白地域（駅から500m、バス停から200m）
	町丁目別のバスに対する不満度
	町丁目別人口密度
	町丁目別高齢化率
	町丁目別高齢化率（75歳以上）
	町丁目別子どもの人口割合（15～64歳）
	町丁目別生産年齢人口割合（～14歳）
施設	町丁目別公共交通空白地域内人口
	町丁目別公共交通空白地域内高齢者人口
	町丁目別公共交通空白地域内高齢者人口（75歳以上）
	町丁目別公共交通空白地域内子ども人口
	保育園・保育サービス、幼稚園、小学校、中学校、児童館
	地域包括支援センター
	訪問・通所介護事業、特別養護老人ホーム等施設サービス事業所
各種団域等 その他	大規模商業施設、商業店舗（食品スーパー）
	図書館・分館
	ふれあいの家、地域福祉センター、文化会館、ホール、劇場
	主要施設
	行政施設
	立地適正化計画区域（都市機能誘導区域・居住誘導区域）
	調布市都市マスタープラン将来都市構造における拠点

▲GIS上で整理したデータ

「現状診断」のための取組

②移動制約に関するデータの収集、整理

- 昨年度以前に収集、整理したデータに加え、「現状診断」を行うための情報収集を進めている。
 - 交通データ（インフラ面・サービス面）や人口分布、人流データなどを用いた、交通が十分な地域・不十分な地域の把握
 - 個人・世帯の属性別（年齢、心身の状態、経済的制約など）の移動に関する現状の把握
 - 地域特性（インフラ、崖線、高低差、狭隘道路、河川など）が移動に影響する可能性のある地域の現状の把握（視察等）
 - 福祉関連の移動に関する事業の把握（福祉有償運送など）

種類	データ	種類	データ
交通	都市計画道路の位置等	施設	保育園・保育サービス、幼稚園、小学校、中学校、児童館の位置等
	道路幅員		地域包括支援センターの位置等
	シェアサイクルステーションの位置等		訪問・通所介護事業、特別養護老人ホーム等施設サービス事業所の位置等
	GTFS-JP		大規模商業施設、商業店舗（食品スーパー）の位置等
	人流ビッグデータ（滞留人口、ODなど）		図書館・分館の位置等
	鉄道利用実態（利用者数、ODなど）		ふれあいの家、地域福祉センター、文化会館、ホール、劇場の位置等
	バス利用実態（利用者数、ODなど）		主要施設の位置等
	タクシー利用実態（利用者数、ODなど）		行政施設の位置等
	シェアサイクル利用実態（利用者数、ODなど）		小学校区、中学校区の位置等
	その他交通機関利用実態（利用者数、ODなど）		福祉圏域の位置等
町丁目別 人口等	町丁目別障がい者人口 経済的に制約のある人の町丁目別人口	各種圏域等 その他	生産緑地の位置等 崖線の位置等

▲ 「現状診断」のために今年度新たに収集するデータ

「現状診断」のための取組

③計画策定に資する勉強会

- 調布市地域公共交通計画の策定に向けて、
関係者の公共交通に関する理解を深めていくことが必要であったため、
活性協議会の会長である中央大学 秋山哲男教授及び竹内龍介准教授を
講師として勉強会を実施した。
- 調布市からは、外環・交通担当部長（同協議会委員）、交通対策課
(課長以下5名)が参加。その他、当該事業の委託事業者（コンサルタント）より2名が参加した。

	日時	概要
第1回	令和6年6月14日(金) 15:00～17:00	「地域公共交通計画」の実質化 に向けた検討会 中間とりまとめ に関する情報共有など
第2回	令和6年7月18日(木) 15:00～17:00	交通不便地域や人口データ等を 地図にまとめたもので取組が 必要な場所を議論
土木計画学 講習会	令和6年7月30日(火) 13:00～17:00	バス・デマンドバスの適切な計 画についての講演、相談会
第3回	令和6年8月8日(木) 10:00～15:45	車で調布市内を現地視察、 深大寺地域福祉センター2階 会議室で討議

▲第1回～第3回勉強会開催状況



▲第2回勉強会で地図を用いて
議論している様子

「現状診断」のための取組

④地図やデータだけではわからない地域特性の現地視察

- 公共交通空白地域や高齢化率、人口密度、子どもの人口、公共交通の満足度、崖線、河川、市境などを複合的に考慮して視察箇所を選定し、車で現地視察を実施した。
- 現地視察により、関係者の間で地図やデータだけではわからない地域特性（高低差、幅員の狭い道路等）を共有した。
- 討議結果を踏まえ、地域特性に応じたアプローチ方法を検討していくことになった。

第3回勉強会（現地視察）	
日時	令和6年8月8日(木) 10:00～15:45
場所	車で調布市内を現地視察、 深大寺地域福祉センター 2階会議室で討議
参加者	中央大学 秋山哲男教授、竹内龍介准教授 調布市 外環・交通担当部長、 交通対策課（課長以下5名） ※当該事業の委託事業者（コンサルタント） より2名

▲現地視察（第3回勉強会）開催概要



▲車内から現地視察している様子



▲会議室での現地視察の振り返り

今後の取組方針について

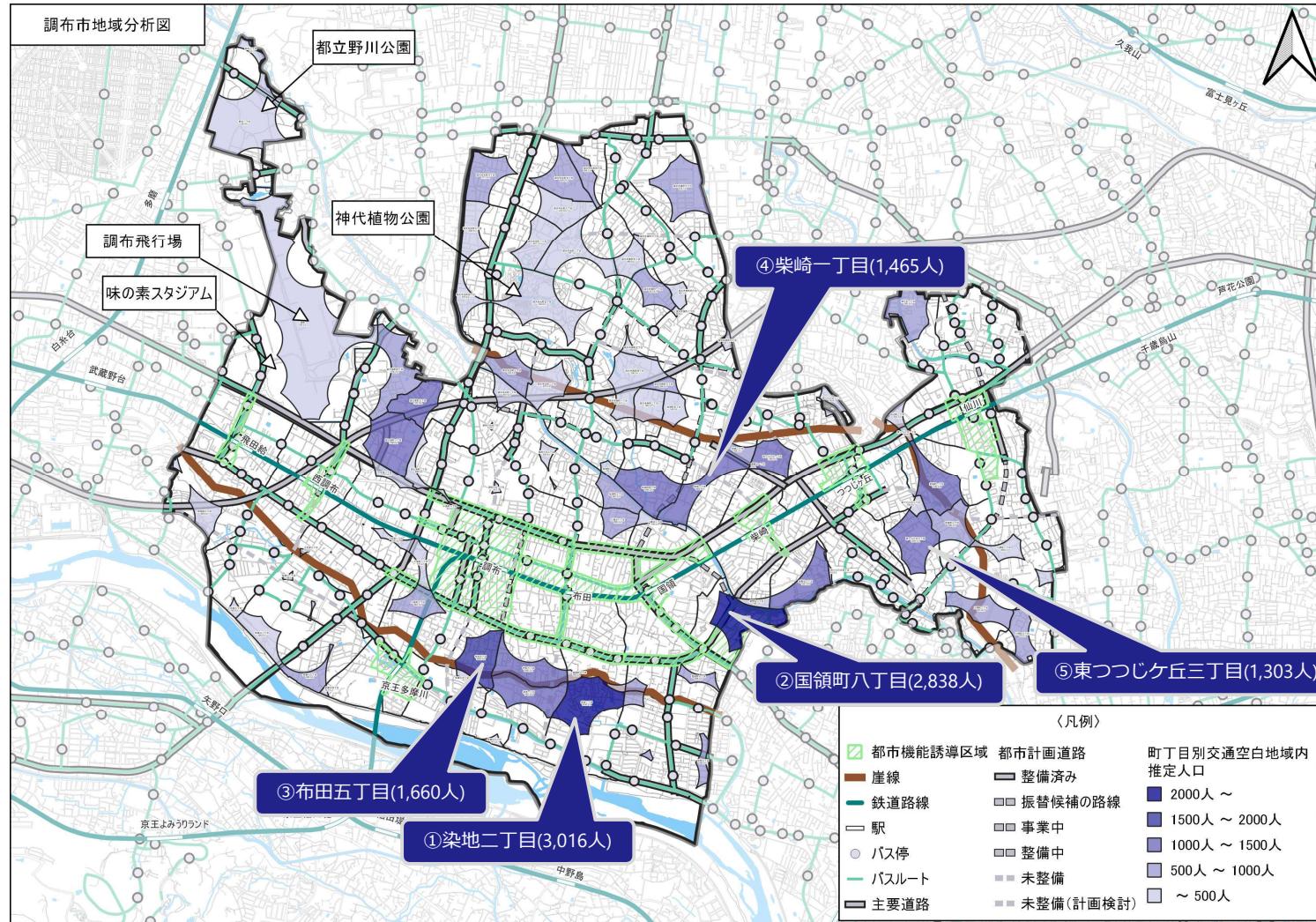
- 今後の方針性について「現状診断」に資する①～④の取組を進めた結果、以下の留意事項が生じてきた。
(現状想定されるもの)
(1) 移動制約者の定義づけやそのデータ収集において、
 - 個人情報を含むデータ提供のための手続きや、取得すべき項目の選定に時間を要する
 - 取得データの分析手法及び活用方法について、詳細な検討が必要
 - 分析結果に対する検証や追加分析、関係者説明など段階を追った対応も必要
(2) 運転手不足などを起因とするバス交通等の影響及び動向の把握
(3) 収集データや分析結果について、学識経験者、交通事業者、地域住民などの関係者と共有、協議する機会の確保が必要
- 今後「現状診断」を適切に行うため、これらのデータ収集や分析、関係者との合意形成のための十分な時間を確保しつつ、策定に向けた検討を深める。

参考資料

(①人の移動に大きく関係するデータを活用した
空間的な分析において作成した各種地図)

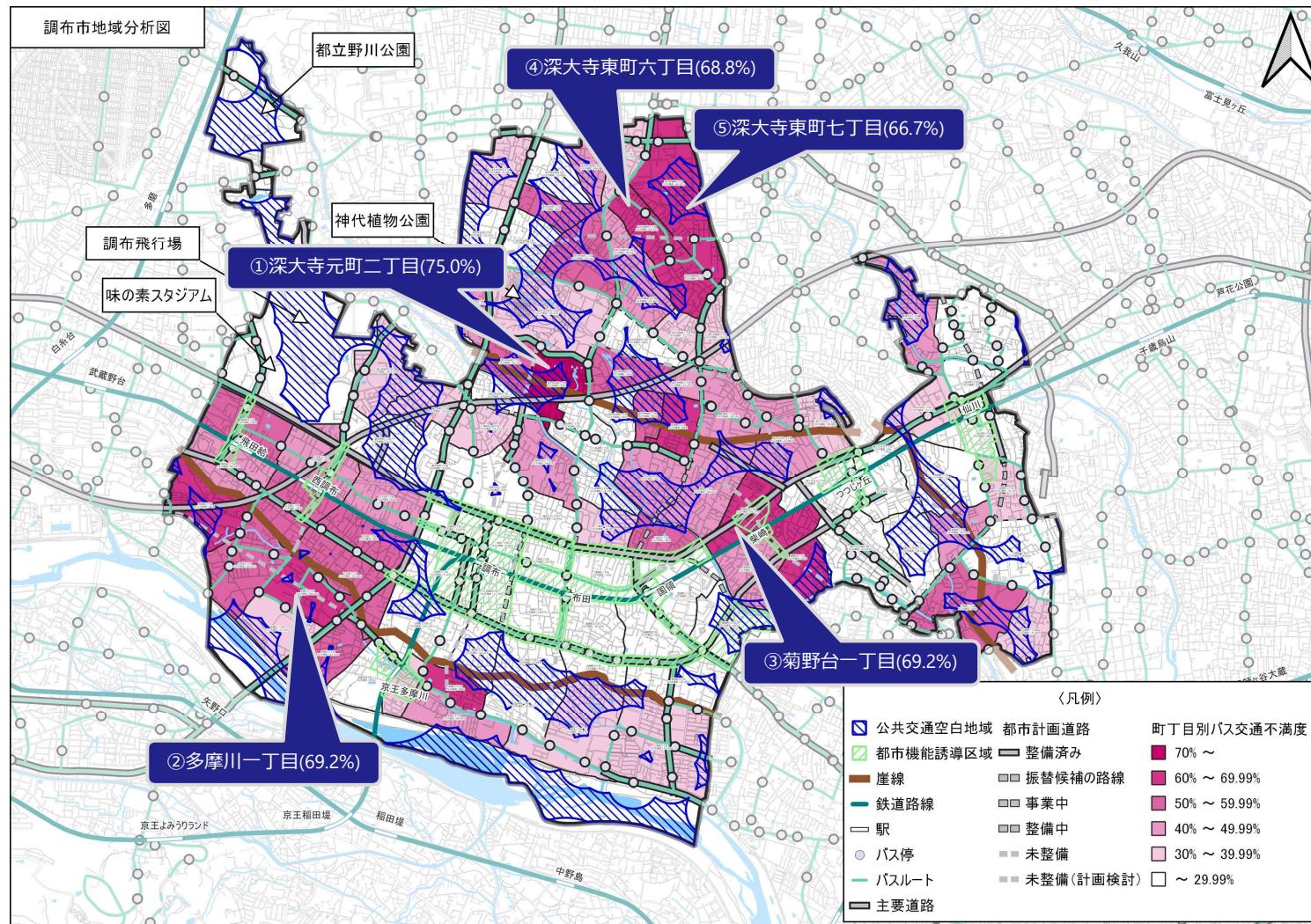
①人の移動に大きく関係するデータを活用した空間的な分析において作成した各種地図 公共交通空白地域の人口

人口と公共交通空白地域を重ね合わせて、該当する人口の多いエリアを抽出。



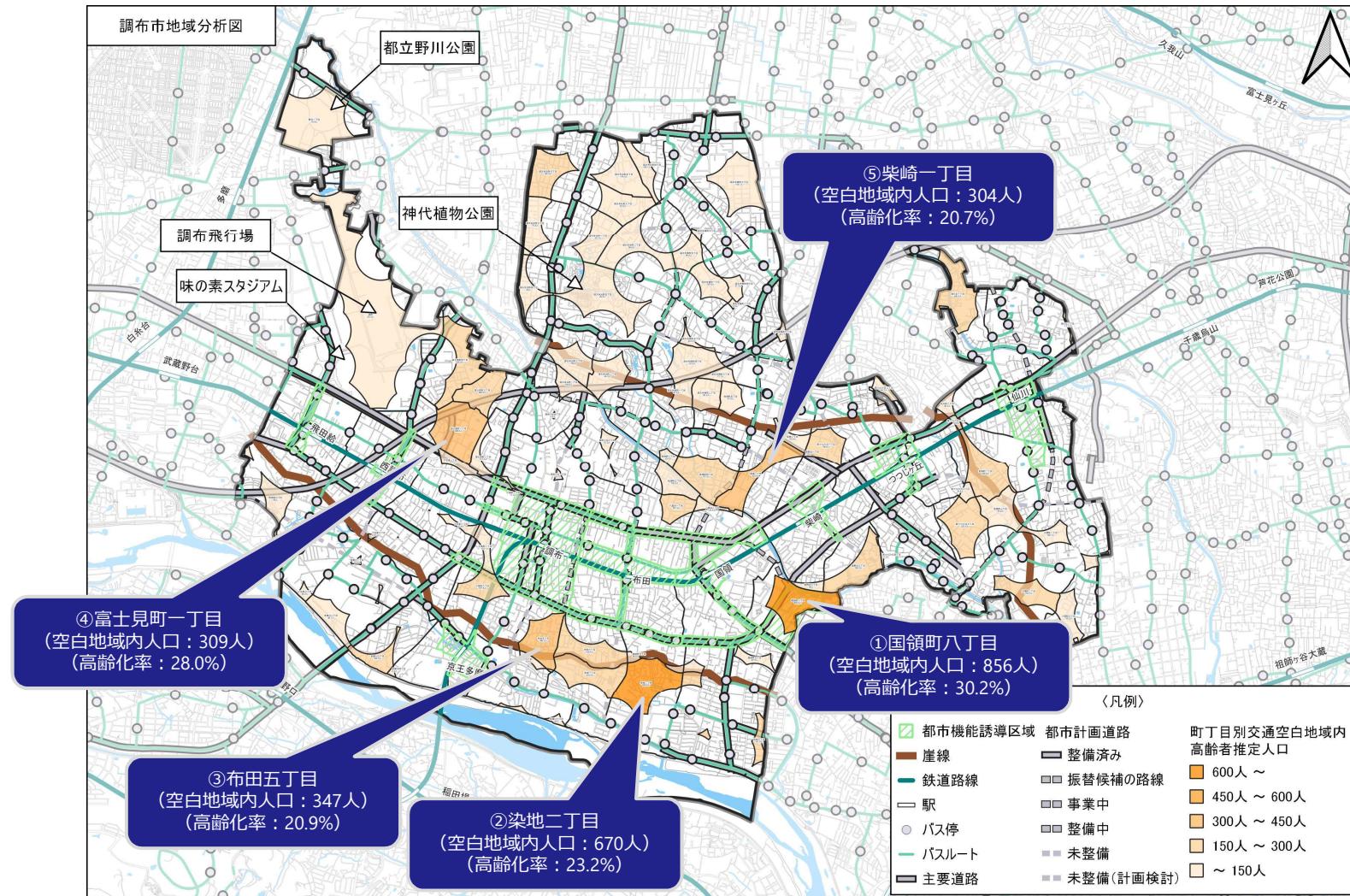
①人の移動に大きく関係するデータを活用した空間的な分析において作成した各種地図 公共交通への満足度

令和5年度住民アンケート調査結果より、公共交通（バス）への不満度が高い（満足度が低い）エリアを抽出。



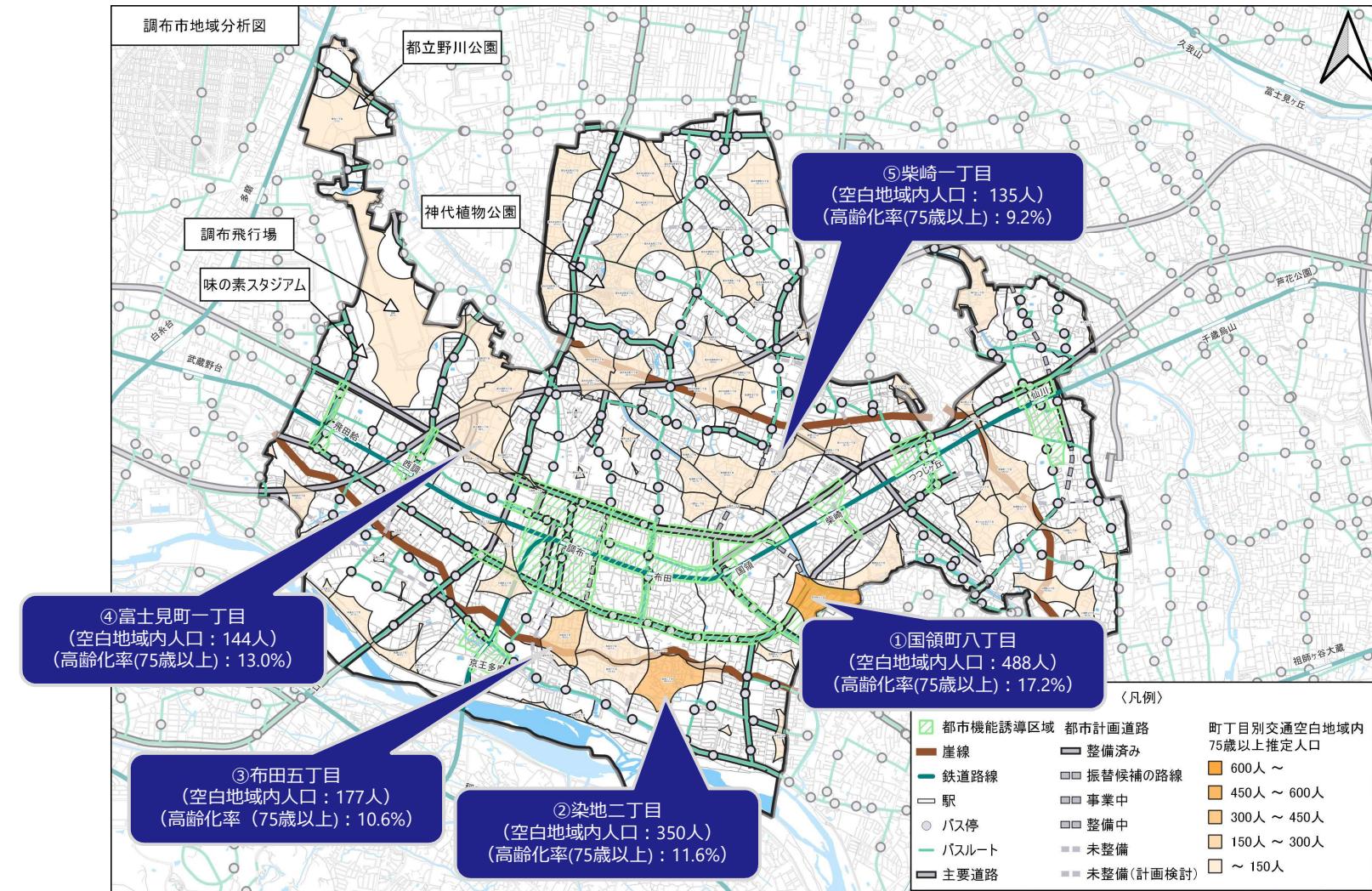
①人の移動に大きく関係するデータを活用した空間的な分析において作成した各種地図 公共交通不便地域の高齢者人口

高齢者人口（65歳以上）と公共交通空白地域を重ね合わせて、該当する人口の多いエリアを抽出。



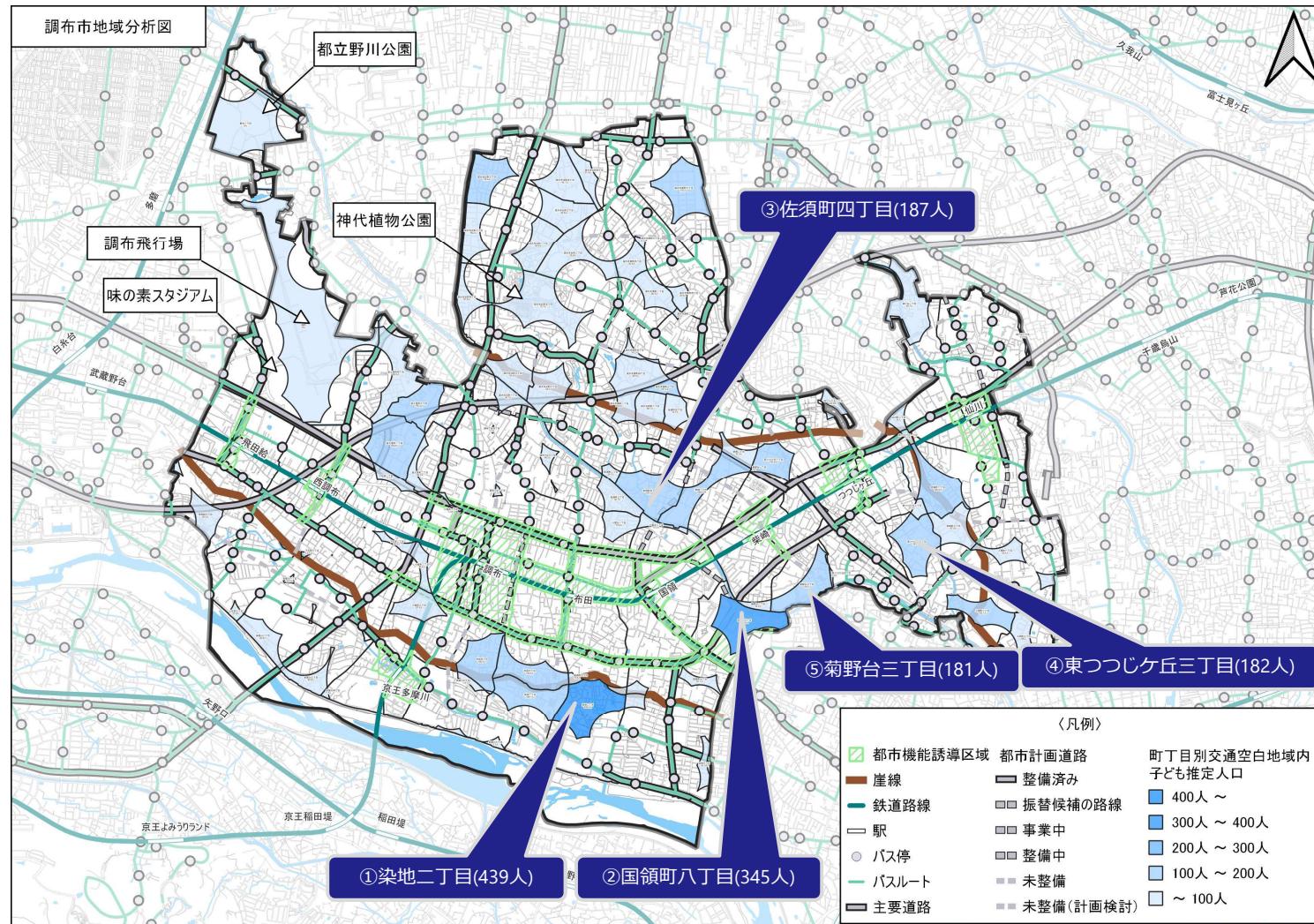
①人の移動に大きく関係するデータを活用した空間的な分析において作成した各種地図 公共交通不便地域の75歳以上人口

高齢者人口（75歳以上）と公共交通空白地域を重ね合わせて、該当する人口の多いエリアを抽出。

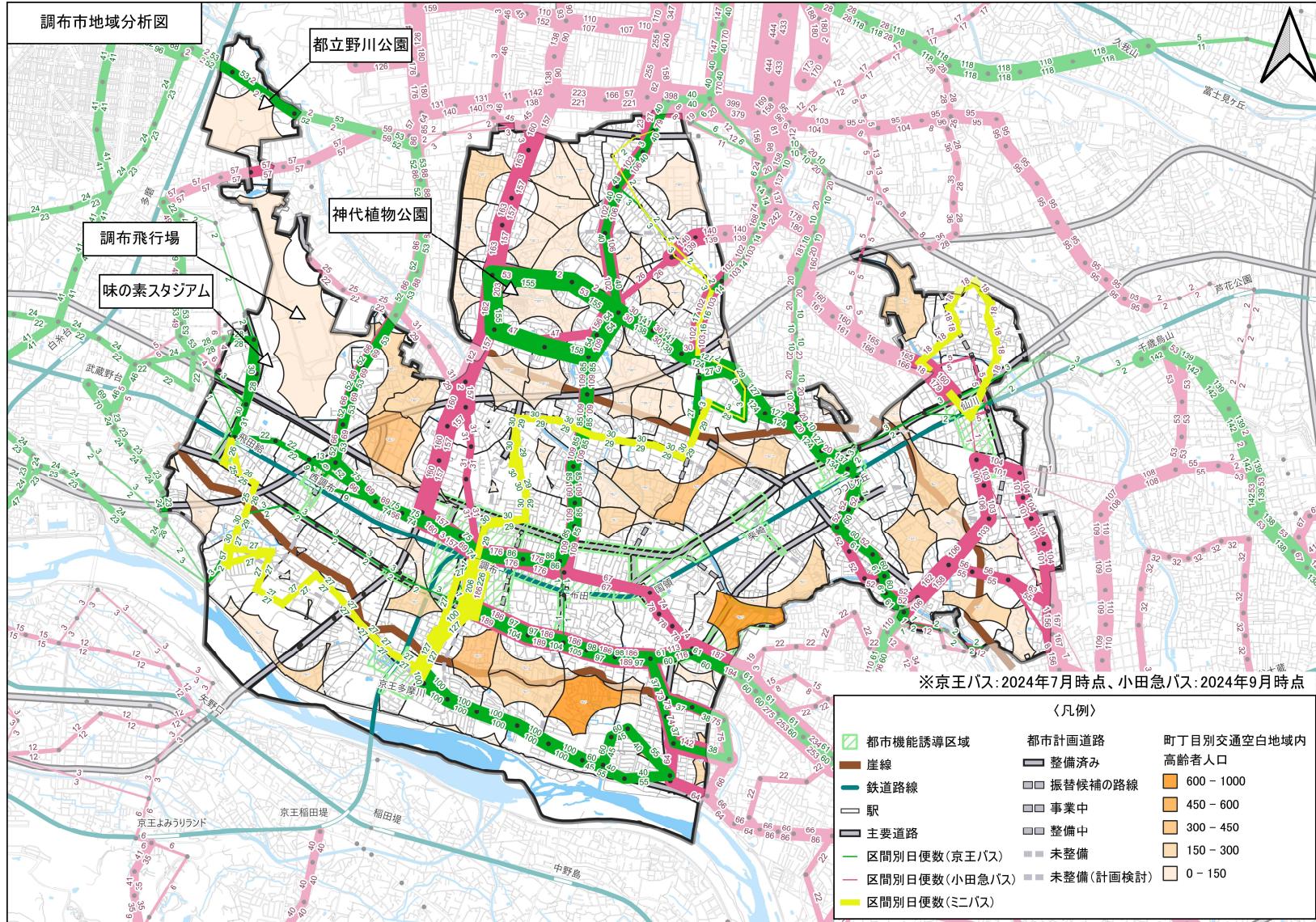


①人の移動に大きく関係するデータを活用した空間的な分析において作成した各種地図 公共交通不便地域の子どもの人口

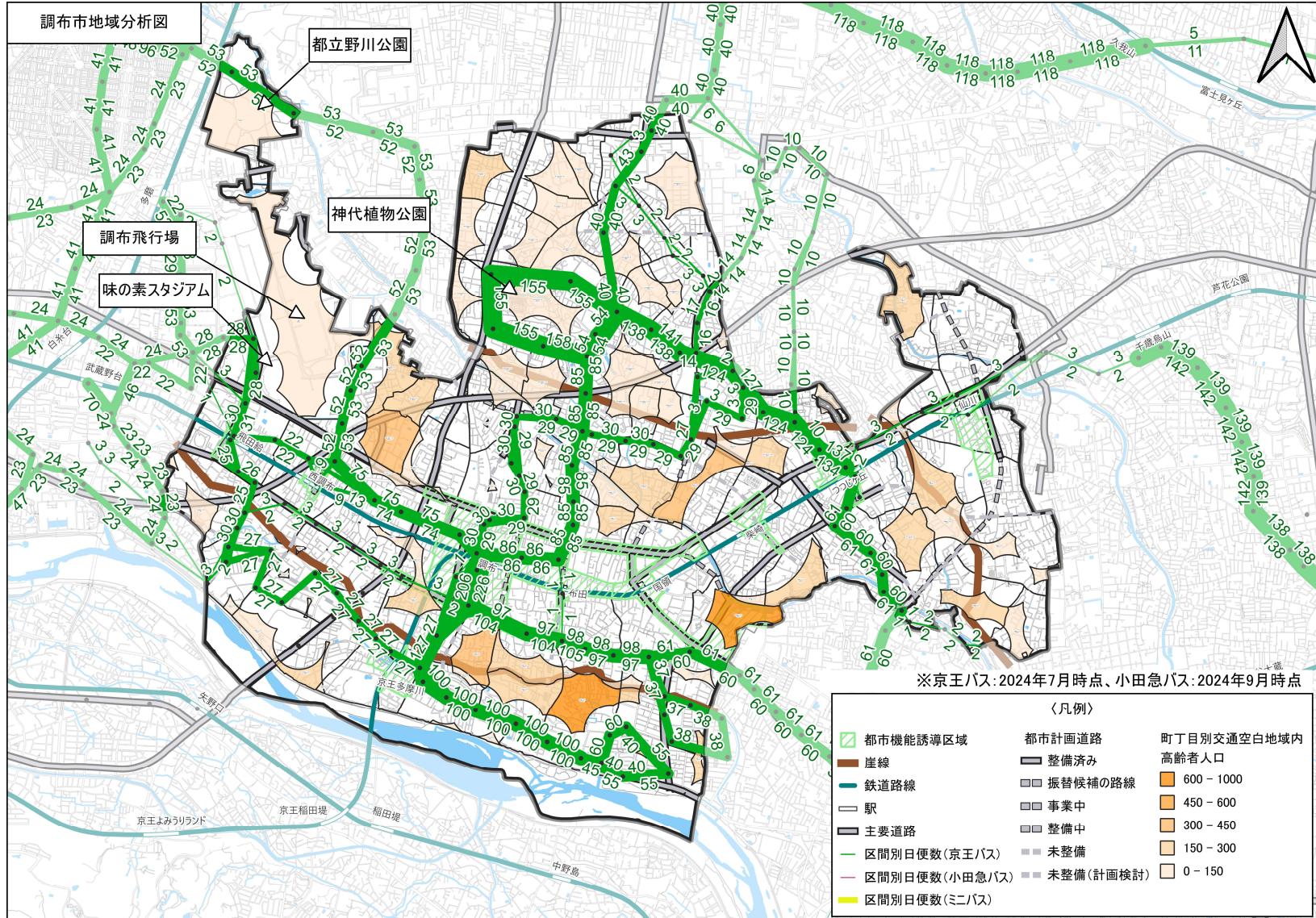
子どもの人口（14歳以下）と公共交通空白地域を重ね合わせて、該当する人口の多いエリアを抽出。



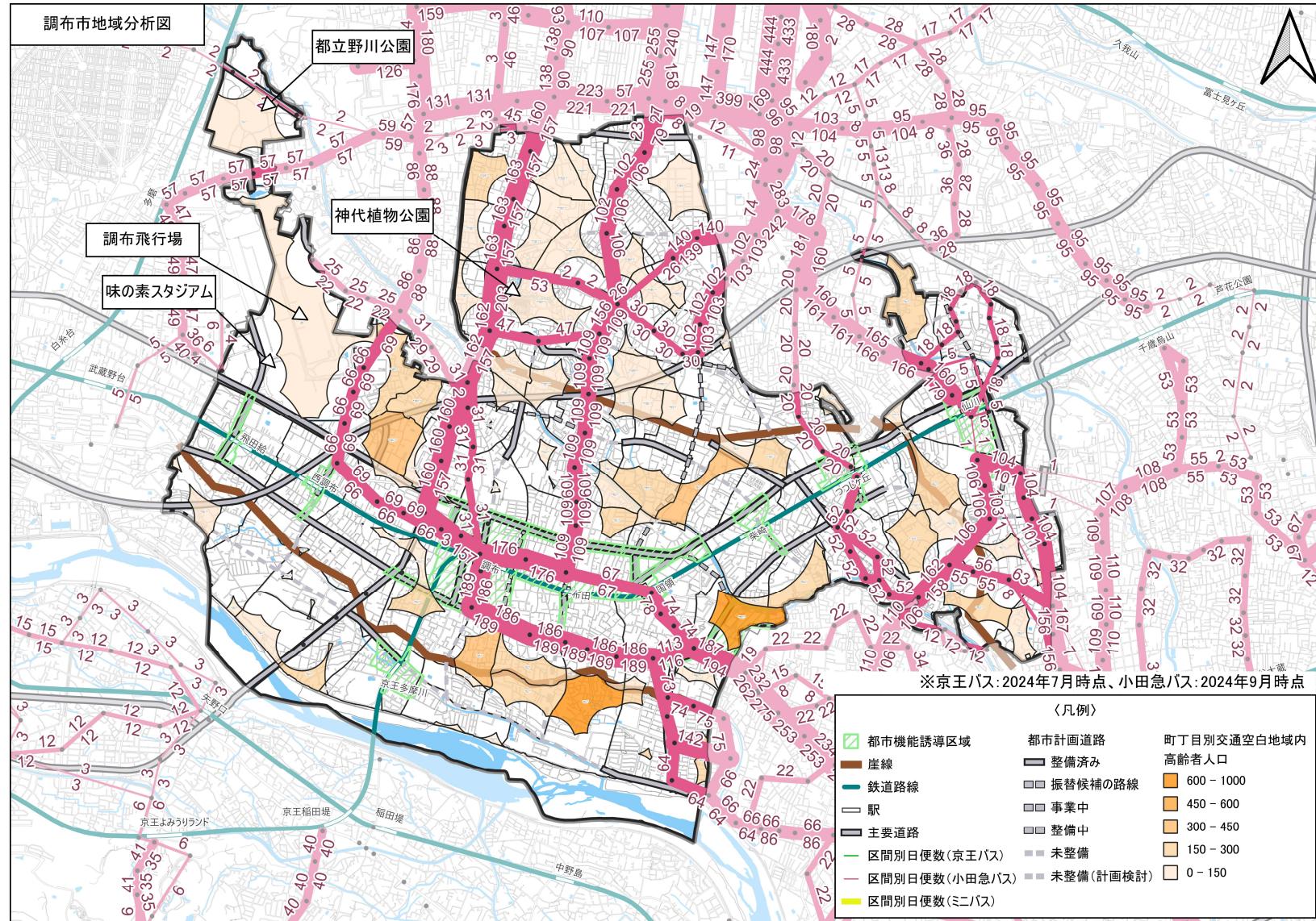
①人の移動に大きく関係するデータを活用した空間的な分析において作成した各種地図
調布市内のバスの区間別1日計便数



①人の移動に大きく関係するデータを活用した空間的な分析において作成した各種地図
京王バスの区間別1日計便数



①人の移動に大きく関係するデータを活用した空間的な分析において作成した各種地図
小田急バスの区間別1日計便数



出典: 基盤地図情報(国土地理院)、国土数値情報(国土地理院)、及び各社GTFS-JPデータをもとに株式会社エイテックが作成 ※公共交通空白地域は駅から500m以上かつバス停から200m以上離れている地域